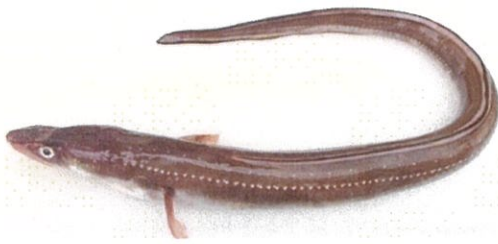


マアナゴ (地方名：ハモ)



生態

- 分布・移動：北海道以南の日本沿岸に分布します。葉形仔魚は黒潮によって運ばれて2月頃に本県海域に来遊します。
- 成熟・産卵：本県では成熟個体は見つかっていません。産卵場は沖ノ鳥島南方の九州-パラオ海嶺上の海域とされており、12月頃に産卵します。
- 食性：幼魚はヨコエビ類を、成長後はカタクチイワシ等の魚類を主に食べます。

マアナゴの成長

年齢	全長 (cm)
1	25~60
2	35~80
3	40~105
4	50~105
5	55~110以上
6	60~110以上
7	80~110以上

福島県水試研報第11号

漁獲の動向

【マアナゴ】平成22年の漁獲量は503トン、漁獲金額は296百万円でした。漁獲量は平成10~22年は362~545トンで推移していましたが、震災後は、操業自粛、国による出荷制限により水揚げはありませんでしたが、平成28年9月から試験操業対象種に追加され、水揚げが再開されました。直近3年間の漁獲量は116.3~213.4トン、漁獲金額は93~128百万円（H25~29は相対取引のため、漁獲金額データなし）で推移しています。

【葉形仔魚】平成22年の漁獲量は2.9トン、漁獲金額は3.5百万円でした。船びき網による葉形仔魚を狙った操業は平成2年頃から始まり、平成19年には過去最高の12トンが漁獲されました。震災後の試験操業では水揚げされていません。

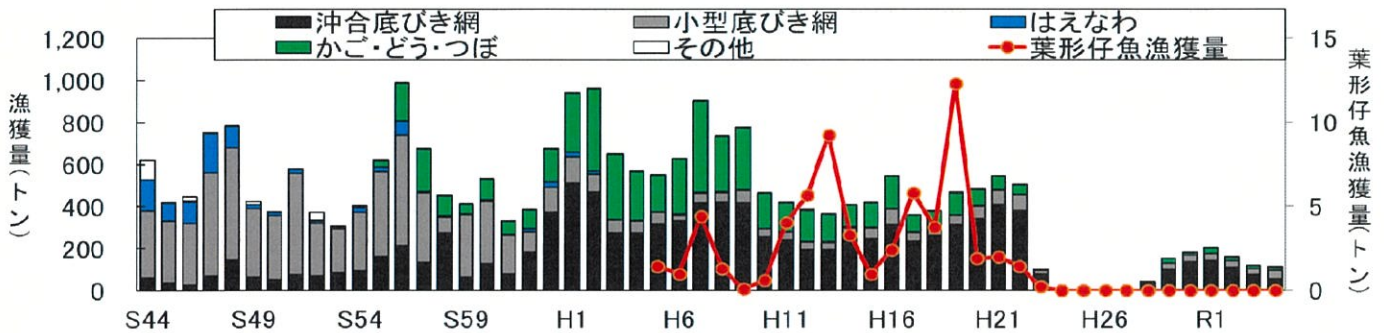


図1 マアナゴの漁業種類別漁獲量

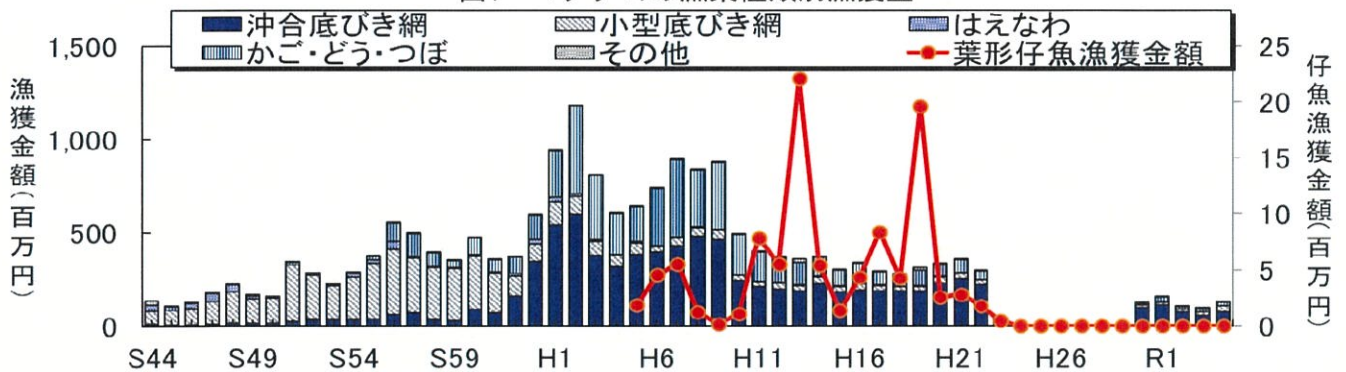


図2 マアナゴの漁業種類別漁獲金額

資源の状態：

○震災以降増加傾向にあった底びき網のCPUE（1時間あたり漁獲量）は令和元年から減少に転じましたが、震災前を上回る水準を維持しています。資源の動向は、直近5年間のCPUEの年変化から「減少」と判断しています。

資源の水準：不明（震災前を上回る）
資源の動向：減少

現在実施されている管理策

平成19年2月に策定された「福島県マアナゴ資源回復計画」に基づいて、全長30cm未満のマアナゴが漁獲禁止されています。葉形仔魚の漁獲規制（相双：禁漁、いわき：2~5月、20kg/隻・日、定休日設定）も規定されていますが、試験操業では水揚げがありません。

今後考えられる管理策

マアナゴ漁獲規制サイズを自主的に大型化する管理策が有効と考えられます。